

〔科目名〕 地域社会論 I	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 専門科目 基幹科目
-------------------------	----------------------	-------------------------------

〔担当者〕 佐々木 てる	〔オフィス・アワー〕 時間:授業開始時に指示 場所:大学院棟 1201 研究室	〔授業の方法〕 講義
------------------------	--	----------------------

〔科目の概要〕

青森県に限らず、人口減少地域においては観光を中心とした「交流人口」を増加させるための、取り組みや企画が考えられている。その中でも特に、各地方地域には独自の祭礼(都市型の祭り)が存在し、それを通じた観光客の誘致を行っている。その経済効果は地域 GDP の数%に上ることもあり、地域にとってはかかせない資源となっている。

青森市に関してはいえば、それは「ねぶた祭」であり、この祭りでは毎年約 110 万人がおとずれている。ではこうした祭りはいかに創りあげられているのか。そしてどのような歴史を持つのか。さらに地域市民はどのように祭りにかかわっているのか。これらの問いについて解説することを通じて、地域社会そのものの仕組みを理解していくこととする。

本講義では「ねぶた祭」を通じて、文化伝統の創出や継承、人口減少対策、経済効果、日常文化の再生産といった地域の様々な側面をみていくこととする。また本年度も「地域×アート」の可能性に注目する。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

自分が住んでいる地域の「市民」としての意識を持ち、現在指摘されている問題が自分の将来、そして自分の家族にとってどのような意味を持つのか、そして問題の解決策を考えるのは学生にとって非常に重要なことである。これは学科を問わず、個々人が考える必要があるだろう。こうした理解から、この講義での具体的な内容は、将来就職した後に、新しいアイデアをより専門的で、地元根付いた視点から提出するときに役立つといえる。特に人口減少と観光を結びつけて考える上では必須の講義となる。具体的な事例を他の事例と比較しつつ、普遍的な考えを学ぶことによって、将来的にはワールドワイドな視点に生かすこともできるようになるだろう。

扱うテーマは青森県、青森市ではあるが、それを比較社会的な視点から分析することを学ぶことで、様々な応用が可能になる。なお考え方の基本は社会的な発想を基本としているため、教養科目「社会と人間」を受講していることが望ましい。

〔科目の到達目標〕

最終目標:地域における問題、課題を自ら発見し、提出し、それに対する解決策を提示できるような思考を養う。特に、人口減少対策としての自分なりにチャレンジしたいことを、具体的な祭礼やイベントを通じて行う思考実験のレベルで提出していくこと。また青森県の事例のほかに、自分なりに同様の事例を見つけ、自ら分析できる力を養うこと。

中間目標:身の回りの文化や資源について「何」があるのか、もう一度気づくことができるようになること。そしてその資源を生かす思考を作ること。なお特に前半は理論的な視座を理解することが最初の目標となる。具体的には伝統の構築、文化人類学的な祭礼研究、社会的な地域社会学的な視点である。

〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕

学部				学科		
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3
	○				○	

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

授業のテーマ、内容について、本年度も第一回の授業の際にテーマについてしっかり説明する。そのため第一回目の授業を受講予定者は必ず出席し、講義内容を確認することを義務付ける。そのうえで受講するかどうかを決定してほしい。特に、なぜ「ねぶた祭」をあつかうのか、「ねぶた祭」の分析で何をみていくのかを話す予定である。その点をしっかり理解することが望ましい。

<p>また成績評価の基準をこれまで以上に分かりやすくするため、成績評価の方法についてもより詳しく説明する。</p>	
<p>〔教科書〕 特になし</p>	
<p>〔指定図書〕 特になし</p>	
<p>〔参考書下記の本を参照することが望ましい。〕 松本茂章 2024『地域創生は文化の現場から始まる』学芸出版社 野田邦弘 2020『アートがひらく地域のこれから』ミネルヴァ書房 宮田登／小松和彦 『増補版 青森ねぶた誌』青森市、2016年]</p>	
<p>〔前提科目〕 特にないが、「社会と人間」を受講しているのが望ましい。</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提起的にコメント用紙を書いてもらい、評価を行う。コメント用紙は主に0～5点で、評価を行う。また中間時に確認テストを行う。なお毎回出席はとる予定でいる。成績評価はこれらの得点と期末試験時の得点を合算したもので算出する。 ・コメントは授業の内容を理解しているのか、自分なりの意見を持てているのかを重視して、評価をおこなっている。また一方的な講義にならないようにしているためのものでもある。授業への感想意見なども積極的に書いてほしい。修正できることはその次の週から取り入れて、修正していく。 ・欠席が多いものは、単位取得が不可能であることを前提としている(目安として5回欠席は単位認定不可としているが、すべて出席したからといって、単位が取得できるわけではない)。 ・カードリーダーによる出席は5～10分程度とし、間に合わない場合は欠席もしくは遅刻となる。原則2回の遅刻で欠席扱いとする。カードリーダーに間に合わず、遅刻した場合は、授業終了後に申し出ることとする。 ・カードリーダーの出欠だけおこない授業を欠席したことが発覚した場合、事情聴取の上、悪質性が高いと判断されれば、当該科目はFとなる可能性がある。 ・試験期間に試験を行う予定でいる。出題内容は授業内容に関するもの。主に論述式で、知識および解釈力、主張を問うものとする。 ・授業に関して興味がないもの、また私語が多いものは受講する必要はないと考えている。 	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験 60%、コメント用紙 30%、中間テスト 10%として採点する。 <p>A～Fの評価は本学の規定に準ずる。</p>	
<p>〔実務経歴〕</p>	
<p>授 業 ス ケ ジ ュ ー ル</p>	
<p>第1回</p>	<p>テーマ(何を学ぶか)： 地域と向き合う 内 容： ガイダンス 地域社会を考えることの意味。具体的には「ねぶた祭」を通じて何を学ぶか、講義全体のビジョンと主旨を説明する。 教科書・指定図書</p>
<p>第2回</p>	<p>テーマ(何を学ぶか)： 青森文化を考える視点：グローバル文化を考える 内 容： 地域文化論の基本的な考えを理論的な視座から学ぶ。その際に、人口減少対策としての「交流人口」「循環人口」「共生人口」の概念について学ぶ。同時にグローバルな視点を考える。 教科書・指定図書</p>

第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):祭りとは何か:基本知識①</p> <p>内 容:基本的な歴史を学ぶ。歴史学、民俗学的な視点からの重要性もあわせて紹介する。この回は特に講義に必要な基礎知識を紹介する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):祭りとは何か:基本知識②</p> <p>内 容:現代的なねぶた祭の構造について学ぶ。そこに関わる人々と社会構造を考える。基本的には地域社会学的な視点から、日常生活におけるイベント等についての意味づけを考えていく。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):地域と祭礼①</p> <p>内 容:都市型の祭礼としてのねぶた祭を考える。特に理論的な視座を学ぶ。特に「地域×アート」の可能性を考える。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):地域と祭礼②</p> <p>内 容:青森ねぶた祭の日常性を考える。地域社会における運営、および企業経営におけるねぶた祭の位置づけを人々の語りから考える。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):日常文化と祭礼③</p> <p>内 容:前回に引き続き地域社会における運営、および企業経営におけるねぶた祭の位置づけを人々の語りから考える。特に青森に根差した企業の活動を紹介し、地方における企業経営と職場についても考える。教科書・指定図書</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):前半のまとめ。</p> <p>内 容:前半に学んだ祭礼、地域社会学的な理論的視座、企業経営と祭りに関する視点を振り返りまとめしていく。同時に前半の理解度を小テストなどによって確認する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):地域社会の活動①:地域メディアとねぶた</p> <p>内 容:ねぶた祭を通じた地域社会の活動例を、具体的に紹介していく。日常的な実践が、大きな企画に結びつき、地域の文化を創り上げていることを学ぶ。またねぶたを取りあげるメディアに注目する。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):地域社会の活動②:ねぶた祭を支える人々、組織</p> <p>内 容:地域活動を考える第二回目として、ねぶた祭に主体的に関わる人々の実践例を紹介する。特に、ねぶた祭を支える企業や、組織などについて紹介していく。祭りを通じた地元産業の在り方について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):地域社会の活動③:他の祭礼との比較</p> <p>内 容:前回までの地域社会の活動を踏まえた上で、青森市以外の地域の祭礼との比較を行う。特に日本各地の祭礼が、どのように地域と結びつきながら開催されているかを学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):地域文化の創設①:ねぶた師という仕事</p> <p>内 容:この回から地域文化が、伝統や文化財になっていくことの意義を考える。まさしく地域の特徴、伝統が創り上げられていくことの重要性を考える。特にこの会は「ねぶた師」に注目する。</p> <p>教科書・指定図書</p>

第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域文化の創設②: 造形物としてのねぶたアート</p> <p>内 容: 前回に引き続き、伝統や文化財について考える。この回は特にねぶた師の技術に注目し、それがいかに伝統文化として認識されているか、さらには新しいアートを生み出しているかを考える。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域文化の創設③: 文化の外部化</p> <p>内 容: 地域文化がパッケージ化され、外部で使用される事例を考える。具体的には青森市外で行われている「ねぶた祭」を紹介しつつ、その地域活性化の可能性を行う。「祭」の地域での役割を考える。</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 地域社会の未来にむけて。</p> <p>内 容: 講義を総括しつつ、地域社会の課題、未来、可能性について考えていく。特に具体的な事例から普遍的な思考を養うための理論的視座をいかに構築していくかを考える。</p> <p>教科書・指定図書</p>
試 験	筆記試験を実施